

東京都荒川区立 **第三日暮里小学校**

# 全ての子どもに学習の保障を

## ～「一人ひとりに合った学習」に、eライブラリを活用～

童謡「夕焼け小焼け」の作詞者、中村 雨紅先生にゆかりのある第三日暮里小学校。休校対策の一環で「オンライン家庭学習教材」として導入したeライブラリですが、高学年を中心に、タブレットを一人一台使えることから、「まずは学校でやってみよう！」の声掛けの元、授業中の活用が進んでいます。

### ■ eライブラリで既習事項の理解を深める



▲ 音読、板書、意見交換、とテンポよく授業が進みます。

#### 算数 既習事項の復習

5年 酒井 勇太先生の算数の授業では、前時に実施した既習事項のテストの解説をしました。

先生は、問題のポイントを解説しつつ、児童の挙手を促します。このクラスでは、発表・発言や意見交換をすることに積極的な児童が多いそうで、一人の発言が周囲への刺激になり、クラス全体が主体的な姿勢で授業が進みます。

解説のあと、4年の単元「面積のはかり方と表し方」の理解をより深めるため、時間を定めてeライブラリでドリル問題に取り組みます。

### ■ リトライで、理解し達成感を得る



▲ 「学習メモ」で考え方を画面に書き込んでいきます。

「eライブラリのドリルは○、×が即座にわかるところが最高！」と語る酒井先生。

「先生、○だったよ！」と喜ぶ児童を褒めることはもちろん、×だった児童にも「間違いは宝だよ！」と認め、意欲を高める声掛けをしています。

eライブラリでは間違えた問題に**その場で「リトライ」**することで、「**できた!**」という達成感が得られます。

教え合いや、得点の見せ合いをしながら、20分のeライブラリの時間はあっという間に終わり、酒井先生は「今日の続きや復習が家でもできます」と声を掛けていました。

### インタビュー 一人ひとりのがんばりを認めるツールに

eライブラリはドリル学習の履歴だけでなく、「ふりかえり」も記録しておくので、**児童一人ひとりの取り組み方にしっかりと関わることができるツール**だと考えています。隙間時間に教師用タブレットで、さっと児童の「ふりかえり」をチェックし、がんばる児童たちに個別に返信ができるところがとても良いです。

今は、eライブラリの多彩なコンテンツの中から、児童や、私自身が「これ使ってみよう」と見つけたものを、どんどん使っているところです。



情報担当 5年担任  
酒井 勇太先生

# eライブラリで一人ひとりに合った学習

eライブラリ導入後すぐに、有効な活用方法について話し合われたという、5年担任の二人の先生にお話を伺いました。

eライブラリ導入のきっかけは「休校時の学習の保障」でしたが、朝学習の時間や隙間時間の有効利用など、学校内でも使える場面は多いと考え、まずは算数の授業で、eライブラリのドリルを利用し始めました。

出題⇒判定・解説⇒採点⇒出題を児童が**自分のペースで取り組めるため学習が途切れず、待ちの時間はありません。**

「タブレットを使う」ことの魅力もあって、ノートに書いたりプリントの問題に取り組んだりするときとは違った集中力をみせる児童もいます。

eライブラリは、**児童が学習に向かう姿勢をつくるきっかけになった**といえ、今後、活用場面を広げていきたいと考えています。

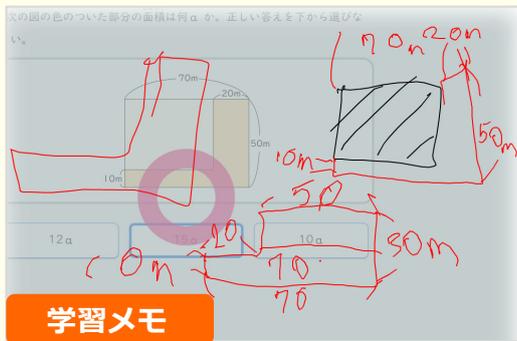


▲ 左から、酒井先生と、同じく5年担任の佐々木 麻梨子先生。

## 児童の様子



▲ 「先生、難しい問題、できたよ！」



### 学習メモ

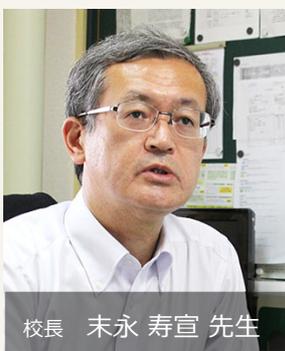
▲ 答えを出すまでに、複数の方法を考えたことがわかります。



▲ 「ふりかえり」の木の成長に注目が集まります。

## 「一人ひとりに合った学習」のポイント

- 苦手な教科・単元の問題に、「リトライ」しながら繰り返し取り組める
- 得意な教科・単元は、「挑戦」問題に自分のペースで進んでいける
- 解答して即座に○、×がわかり、「できた」「間違えた」が記憶に残る
- ノート等で問題に取り組むことが苦手な児童が、タブレットであれば集中できる
- 学校で解き終わらなかった教材の続きを、自宅に取り組める



校長 末永 寿宣 先生

## インタビュー 学習を机上のもので終わらせない、教員の役割

今後起こり得る臨時休校や授業短縮に備えるためeライブラリを導入しました。「オンライン教材」が普及すると「教員は何もしなくてよいのか」と言う人がいますがそのようなことはありません。

eライブラリが担うのは学習の土台の部分です。例えば面積を求めるならば「面積の公式」の知識と「かけ算」の早く正確な計算力が必要で、**これらを身につけるための反復学習は、eライブラリで合理的にできます。**

教員がすべきことは、eライブラリの効果を踏まえた土台の上、生きる力につなぐ指導であり、教員の腕の見せ所は、ここからなのです。

※2020年4月リリースのeライブラリ最新版を利用しています。